

大正十年十月

戦前戦後に於ける國富統計

國

勢

院

國民所得部

保存資料

本書は当庁で実施しつづ
ある昭和三十年国富調査
の執務参考資料として原
本を復版したものである

昭和三十一年八月

経済企画庁

調査部統計課

緒言

国富統計は国富の多寡増減を察し従て国力の強弱を知るに足るを以て政治家、行政官、学者其の他一般人士の之を知らんと欲すること甚だ切なるものあるに拘らず欧米諸国に於ても未だ完全に之を調査したることなし、是れ畢竟其の範圍頗る広汎にして労費の許さざるものあるのみならず往々統計の原則に悖りて調査不能のもの之あるを以てなり。

故に今日尚此の種の調査は主として既存の統計に基きたる一種の推計に過ぎざるを以て其の結果の信憑するに足らざるものとし主観的直覚論者より一言を以て排斥せらるゝ所以なり。

然れども縦令其の方法に欠点ありとするも毎次同一の方法を踏襲して之が計算を為さんか其の結果は以て国運消長の如何を察するに足るべく各方面の好参考たるを失はざるべし。北米合衆国の如きは統計調査の機関に於て屢次之を調査して議会に報告するを例とせり、我国に於ても亦従前一二

の調査なきにあらずと雖未だ官府の調査を以て之を公にしたることなかりしは夙に遺憾としたる所なり。

然るに今夏国際聯盟より八大工業国決定問題参考資料として要求せる調査事項中我国の国富統計の要求あり外務省は之が調査を本院に照会したり是に於て国际上の必要に迫られたるを動機とし年来の宿題を解決せんとし森及浜田両統計官をして之が調査に当らしめたり、依て両統計官及諸多の係員は暑中休暇を全廢して之に従事し其の調査を了したるを以て不取敢外務省に送付回答をなしたり。

本編は即ち其の副本にして便宜印刷に附すと雖謄写に換へたるに過ぎず其の内容は未定稿に属し不備の点固より尠からざるべしと雖敢て之を諸彦に呈する所以は推計評価等の方法に關し批判を仰がんが為に外ならず、希くは幸に教示を賜らんことを。

国勢院才一部長 牛 塚 虎太郎

大正十年十月

戦前及戦後に於ける国富統計

目次

一 国富推計の方法一斑	一頁
一 我国国富推計の方法及其の説明	四
附 録	
一 日本の国富各年比較	五七
一 各国国富比較	五八
一 北米合衆国国富推計方法及其の評価額	六〇

戦前戦後に於ける国富統計

国富推計の方法一斑

国富推計の方法に種々ありと雖、要するに客観的（物的）方法及主観的（人的）方法の二とす、前者は各種の財物に就き之を貨幣価値に見積りて其の価額を推計せんとし、後者は財産所有者に就き課税額より還元して全財産の価額を推計せんとするにあり、今是等兩種の方法に依り計算を試みたる前例次の如し。

甲 客観的方法に依りし例

(一) フェルネル氏は千八百九十九年匈牙利の国富を左の五項に就き推計したり。

- 一 土地
- 二 建物
- 三 交通機関
- 四 動産
- 五 外国に対する債権

(二) シュタイマンブツヘル氏は千九百九年独逸の国富を左の七項に就き推計したり。

- 一 土地
- 二 鉱山
- 三 船舶
- 四 運送中の貨物
- 五 硬貨
- 六 私有及公有財産

七 外国への投資額

(三) 北米合衆国国勢調査局は従来屢次同国の国富を計算したることあり、最近千九百十二年には左記二十一項に就き国富を推計したり。

一 課税不動産	一二 船舶及運河
二 免税不動産	一三 水利事業
三 家畜	一四 電燈及電力
四 農業用機械器具	一五 農産品
五 工業用機械器具	一六 工業品
六 金銀貨及金銀塊	一七 輸入品
七 鐵道	一八 鉦産品
八 市街鐵道	一九 衣服及身の廻り品
九 電信	二〇 家具
一〇 電話	二一 馬車
一一 諸車	

(四) 日本銀行調査局は明治三十八年、同四十三年、大正六年、同八年の四回我が国富を計算したり、其の方法は毎回多少の改良を加ふる所ありと雖大體北米合衆国の方法に類似す、而して最近調査に於ては左記の十九項に就き国富を推計したり。

一 土地	一一 諸車
二 鉦山	一二 船舶
三 海湖川及港灣	一三 軍艦
四 樹木	一四 水道
五 建物	一五 橋梁
六 家具	一六 商品
七 製造工業機械	一七 金銀及貨幣
八 家畜及家禽	一八 雜貨
九 鐵道及軌道	一九 對外債權
一〇 電信及電話	

是等客観的方法の欠点は左の如し

- 一 各項推計の基礎たる統計完備せざること
- 二 各項に就き平均単価を決定するに困難なること

乙 主観的方法に依りし例

(一) アドルフ、ワグナー氏は一般財産税又は一般所得税を以て国富を推計するを適當なりと云ひ、ヘルフェーリツヒ氏は一般財産税に依り独逸の国富を推計したり。

(二) ギッフエン氏は千八百八十五年英国の国富を、テオザ、マネー氏は其の後同国国富を又フルマン氏は千九百十四年ザクセンの国富を一般所得税より推計したり。

(三) フォーツイユ氏は数年間の相続税に依りて一年平均額を求め之より毎年相続交替する財産額を推計し、更に平均交替を三十年と仮定して全財産額を還元する方法に依り仏蘭西の国富を推計したり。

是等主観的方法の欠点は次の如し。

- 一 課税法の不備又は納税者の不徳なること
- 二 一定の所得以下のものは免税せられ脱漏すること
- 三 課税範囲が財産の全部に及ばざること

我国国富推計の方法及其の説明

本調査は客観的方法に依る北米合衆国国勢調査局及日本銀行の調査方法を参酌し左記二十四項に就き国富を推計したるものとす。

- 一 土地 一三 橋 梁
- 二 鉱山 一四 農 産 品
- 三 海湖川及港湾 一五 林 産 品
- 四 樹木 一六 工 産 品

- 五 建 物 一七 鉄 産 品
- 六 家具及家財 一八 水 産 品
- 七 製造工業機械 一九 輪 入 品
- 八 家畜及家禽 二〇 金銀貨幣及地金
- 九 鉄道及軌道 二一 各省 財 産
- 一〇 賭 車 二二 皇 室 財 産
- 一一 船 舶 二三 其 の 他
- 一二 水 道 二四 対 外 債 権 債 務

一 戦前及戦後に於ける国富比較

国富総額	戦前(大正三年末)		戦後(大正八年末)		増加額
	千両	百両	千両	百両	
一 土地	一、三七九、五一八	三、三〇八、五六六	一、九二九、〇四八	四九四、四三三	
二 鉱山	一四六、八四九	六四一、二八二	一八二、九五五	二七七、三五六	
三 海湖川及港湾	二七六、七四三	四五九、六九八	四九二、八四三	二八五、七五一	
四 樹木	一七六、〇一五	四五三、三七一	七〇、二九三	三、四四五	
五 建物	三六三、一六三	八五六、〇〇六	二八五、七五一	七〇、二九三	
六 家具及家財	一五六、六〇〇	四四二、三五一	八一、一三六	一三、四六七	
七 製造工業機械	三九、九〇一	一一〇、一九四	七、二一八	〇四二	
八 家畜及家禽	一五、四四〇	五〇、二八五	一三、九〇九	二六三、〇〇八	
九 鉄道及軌道	二九、九三四	一一一、〇七〇	四、七二七	一八八、二五五	
一〇 諸車	四、七二三	一八、一九〇	三〇、一四五	二、三五一	
一一 船舶	四七、一二七	一一八、一六九	二五、二七九	一六一、三一六	
合計	三、二〇四、三二三	八、六〇七、七〇七	五、四〇三、三九四	三、二〇四、三二三	

一二 水道	七、六八六	一四、九〇四	七、二一八	
一三 橋梁	九、四八三	二二、三九二	一三、九〇九	
一四 農産品	九九、四三八	二六二、四四六	二六三、〇〇八	
一五 林産品	四、〇五八	八、七八五	四、七二七	
一六 工業品	七四、七五〇	二六三、〇〇五	一八八、二五五	
一七 鉱産品	八、五四六	三八、六九一	三〇、一四五	
一八 水産品	一、九八五	四、三三六	二、三五一	
一九 輸入品	一九、二三〇	四四、五〇九	二五、二七九	
二〇 金銀貨幣及地金	七四、六七五	二三五、九九一	一六一、三一六	
二一 各省財産	一一一、六一八	一五四、八四五	四三、二二七	
二二 皇室財産	三四、五九四	七二、七二八	三八、一三四	
二三 其の他	三〇八、二〇七	七七九、二八一	四七一、〇七四	
二四 債務超過	一八五、九七〇	三五、六一二	二二一、五八二	

△は債権超過

二 戦前に於ける国富

国富総額	官公有	私有
一 土地	一四、七九九	一、三六四、七一九
二 鉱山	—	一四六、八四九
三 海湖川及港湾	—	—
四 樹木	二七六、七四三	—
五 建物	一〇九、八一三	六六、二〇二
六 家具及家財	二二、五二三	三四〇、六四〇
七 製造工業機械	—	一五六、六〇〇
八 家畜及家禽	—	三九、九〇一
九 鉄道及軌道	二七三	一五、一六七
一〇 諸車	五、三八五	二四、五四九
一一 船舶	—	四、七二三
総額	四九〇、一〇一 <small>万円</small>	二、七二四、二二二 <small>万円</small>

一二 水道	七、六八六	—
一三 橋梁	九、四八三	—
一四 農産品	九、四三八	八〇九
一五 林産品	四、〇五八	—
一六 工産品	七四、七五〇	—
一七 鉱産品	八、五四六	—
一八 水産品	一、九八五	—
一九 輸入品	一九、二三〇	—
二〇 金銀貨幣及地金	七四、六七五	九、〇九八
二一 各省財産	一一一、六一八	—
二二 皇室財産	三四、五九四	—
二三 其の他	三〇八、二〇七	六〇、二八二
二四 債務超過	一八五、九七〇	一七三、〇〇五

三 戦後に於ける国富

国富総額	官公有	私有
一 土地	三、三〇八、五六六	七、三五六、〇〇一
二 鉱山	六四一、二八二	三、二六二、四五二
三 海湖川及港湾	四五九、六九八	六四一、二八二
四 樹木	四三三、三七一	一七〇、五二一
五 建物	八五六、〇〇六	八〇八、三六五
六 家具及家財	四四二、三五二	四四二、三五二
七 製造工業機械	一一〇、一九四	一一〇、一九四
八 家畜及家禽	五〇、二八五	四九、三九三
九 鉄道及軌道	一一一、〇七〇	八二、五〇六
一〇 諸車	一八、一九〇	一八、一九〇
一一 船舶	一一八、一六九	一一八、一六九
一二 水道	一四、九〇四	一四、九〇四
総額	八、六〇七、七〇七	一、二五一、七〇六

一三 橋梁	二二三、三九二	二二三、三九二	三五九、四九四
一四 農産品	三六二、四四六	二、九五二	八、七八五
一五 林産品	八、七八五	—	二六三、〇〇五
一六 工業産品	二六三、〇〇五	—	三八、六九一
一七 鉱産品	三八、六九一	—	四、三三六
一八 水産品	四、三三六	—	—
一九 輸入品	四四、五〇九	—	—
二〇 金銀貨幣及地金	二三五、九九一	一〇五、一〇〇	一三〇、八九一
二一 各省財産	一五四、八四五	一五四、八四五	—
二二 皇室財産	七二、七二八	七二、七二八	—
二三 其の他	七七九、二八一	一二七、一一一	六五八、一七〇
二四 債権超過	三五、六一二	△ 一〇九、〇八六	一四四、六九八

△は債務超過

備考 大正二年末国富推計と同一の方法に依り推計したるものなり

前表戦前に於ける国富の各項に付推計の方法を説明すれば次の如し。

一 土地の価額 百三十七億九千五百十八萬二百七十八円

各省及皇室所有の土地は之を除き民有租地、民有年期地、民有免租地、国有林野、公有社寺有林野の五種に大別し、更に民有租地は之を田、畑、宅地、塩田、山林、原野及牧場、鉾泉地池沼及雑種地の七目と爲し、民有免租地は之を用地及敷地の二目と爲し、国有林野、公有社寺有林野等は之を森林及原野の二目と爲し是等各種目に就き次の方法に依り其の価額を推計したり。

(イ) 民有租地の価額 百三十一億八千五百六十七萬九千二百八円

田、畑、宅地及塩田の価額は大蔵省主税局年報所載の各府県中等地一反歩の売買価額を単価とし之を其の総反別に乘じて算出したり。大約地価の七倍に當る山林、原野及牧場、鉾泉地池沼及雑種地の売買価額は之を知ること能はざるを以て山林は地価の四倍を其の他は地価の三倍を単価とし各其の総反別に乘じて算出したり即ち次表の如し。

民有租地	反別		額
	田	畑	
田	一四、八三九、四二六・二	一三、一八五、六七九、二〇八	二八、〇二四、一〇五
畑	二、八六九、一九二・四	四、七五三、三七三、〇六五	七、六二二、五六五
宅地	二、三九六、九〇二・五	二、〇〇八、七六〇、二二三	四、四〇五、六六二・七
塩田	三八五、八八四・五	六、二九四、七四四、〇八九	六、六八〇、六二九
山林	六、一二二・三	一一、四五六、五一八	一七、六七八・六
原野及牧場	七、八二七、九八七・〇	一〇五、三三四、七八〇	一一三、一五四、七六七
原野及牧場	一、三二七、七二八・七	八、三四九、五九七	九、八二六、三二五

鉾泉地池沼及雑種地

二五、六〇八・八

三、六六〇、九三六

民有租地

總数	反別		額
	田	畑	
総数	二八六九、一九二・四	二、三九六、九〇二・五	五、二六六、〇九四・九
北海道	五、〇八六・〇	三、〇七二・六	八、一五八・六
青森県	六、八三九・五	五、二六五・二	一二、一〇四・七
岩手県	五、二一八・五	八、五八三・〇	一三、八〇一・五
秋田県	一、〇〇八・五	三、四二六・四	四、四三五・九
山形県	八、六三三・六	四、三三三・五	一二、九六七・一
宮城県	八、一〇三・六	三、九三二・三	一二、〇三五・九
福島県	九、五〇〇・九	八、五一一・四	一八、〇一二・三
茨城県	九、〇〇一・〇	一、一五三・三	一〇、一五四・三
栃木県	六、一〇四・一	六、一五五・六	一二、二五九・七
群馬県	二、九八〇・七	七、〇七九・七	一〇、〇六〇・四
埼玉県	六、六六六・一	九、六九一・七	一六、三五七・八
千葉県	一、〇七〇・一	七、八五三・二	八、九二三・三
東京都	一、六二八・〇	四、七五五・三	六、三八三・三

反別	一反歩価額	価額	反別		一反歩価額	価額		
			町	町				
神奈川	町	二五三・八	一八〇	四五二四八八〇	町	五二五八〇・四	一一〇	五六七三八四四〇
新潟	町	一六九九六七・九	一〇五	一七八四六六二九五	町	七六四三七・四	三三	二五三二四三四二
富山	町	七六一九六・七	一五〇	一一八七九〇五〇	町	一六八三三・三	五五	九二五三八一五
石川	町	五三三七二・七	一六五	八七三三四九五五	町	二八〇七八・九	六六	一八五三〇七四
福井	町	四七七三三・一	一五〇	七二五九八二五〇	町	一四一三〇・四	六〇	八四七八二四〇
長野	町	七七一〇三・一	一五七	一一〇九〇〇五六七	町	九六〇八五・九	九〇	八九一七三三〇
岐阜	町	六四七六七・六	二六〇	一六八三九五七六〇	町	四九三三六・四	二二〇	一〇五五八五四四〇
滋賀	町	六四七四四・七	一五〇	九七二二七〇五〇	町	一一五四五・一	七三	八四三二七九三三
山梨	町	一八二三九・一	二〇〇	三六四七八二〇〇	町	四一〇三三・八	九〇	三六九三四〇三〇
静岡	町	六三三三五・五	一五〇	九四九七三三五〇	町	六七〇二五・三	九五	六三六七三九四〇
愛知	町	九三三〇一・一	二四〇	二二八八二六四〇	町	六六六九七・五	一七〇	一〇四八八五七五〇
三重	町	七五七三〇・五	一六五	一一二六五五三三五	町	二六六九七・一	一三〇	三三〇三六五二〇
京都	町	四六三五四・五	二五五	七八四九四七五	町	一八六七三・八	九九	一八四八七〇六一
兵庫	町	一一二七五・七	二三〇	二五五九三三四一〇	町	三〇四二三・五	五〇	一五三二一七五〇
大阪	町	五五一一五・二	二九〇	一五九九三六八八〇	町	一四〇七二・二	一一〇	一五四八四九三〇
奈良	町	三三三八一・二	二二〇	四〇九七四四〇	町	一〇四六〇・一	六〇	六二七八一三〇

和歌山	町	三三三一九六・六	二五〇	八三三四一五〇〇	町	一三三〇三・中	一一〇	一五〇四〇七〇
鳥取	町	三三九二七・六	二〇〇	六五三三五三〇〇	町	一四二〇四・九	六〇	八八二九九四〇
島根	町	五五五九五・七	六一九	一三三九四四五一三	町	四〇〇三四・八	六九	二七六二四〇一一
岡山	町	八六九九一・九	二三〇	二〇〇〇二二七三〇	町	三三三三三・五	一〇〇	三三三三三〇〇
広島	町	七五六七四・六	一七六	一三三二八七三九六	町	三六三九七・七	一〇〇	三三三九七七〇〇
山口	町	八〇七四二・一	三〇〇	二四七三六六〇〇〇	町	三三三三三・八	八〇	二七三〇六二四〇
徳島	町	二六七九一・〇	二二〇	五五二六二二一〇〇	町	三六七四九・六	一三〇	四七七七四四八〇
香川	町	三三九四八・三	一九四	七六〇三三三三	町	一〇六〇一・四	八〇	八四八二二二〇
愛媛	町	四八一三五・九	三〇〇	九六二七二八〇〇	町	六七四九九・三	一三〇	八七四四七七九
高知	町	三六七七三・五	三八〇	一三三七三三三〇〇	町	八九七三二・一	一六〇	一四三三三三三六
大分	町	五三三六九・〇	一四五	七七〇九五〇五〇	町	四六七〇四・七	六〇	二八〇三三二二
福岡	町	一一五〇七五・〇	一四七	一六六一六〇一一五〇	町	五〇四四〇・六	八〇	四〇三三二四八〇
佐賀	町	五二四〇五・三	一四〇	七二九六七四二一〇	町	一九八〇九・〇	七五	一四九五六七五〇
長崎	町	三三三三六・七	一五〇	四九九九〇〇五〇	町	五七四八五・三	五五	三三六一六一五
熊本	町	六八九八五・七	一五〇	一〇三五四七八五五〇	町	一〇八七八五・四	八〇	八七〇二八三三〇
宮崎	町	四二二二九・六	一五〇	六八八四四四〇〇	町	六五九四三・〇	四〇	二六三七七五〇〇
鹿児島	町	五八五四九・九	一四〇	七六一六九九六〇	町	一六二二〇四・六	一三〇	一九四六四三三三〇
沖縄	町	八四九一・五	五〇	四一四四七五〇	町	五四三三三・〇	三三	二二八二二九九〇

地	反別		反別	反別	
	町	田		町	田
總數	三八五八四・五	一	六二二・三	一	一四五六二八
北海道	三〇六・九	五三〇	—	—	一四五六二八
青森県	六九五八・〇	三〇〇	—	—	—
岩手県	九九七六・九	四八〇	—	—	—
秋田県	八四四四・一	四五〇	—	—	—
山形県	六六一三・〇	八四〇	—	—	—
宮城県	九三六六・四	六五六	—	—	—
福島県	一〇七二二・九	六〇〇	—	—	—
茨城県	一五三三八・六	五七〇	—	—	—
栃木県	一四四七五・二	七二〇	—	—	—
群馬県	九二四九・三	六九〇	—	—	—
埼玉県	一五八六三・三	八四〇	—	—	—
千葉県	一五九八四・二	七〇〇	—	—	—
東京都	一七八一・八	二二九三〇	—	—	—
神奈川県	七六五四・四	四三〇〇	—	—	—
新潟県	一五三三三・三	四〇八	—	—	—

地	反別		反別	反別	
	町	田		町	田
富山県	六〇五二・三	一四四〇	—	—	—
石川県	五三四三・六	二五〇	—	—	—
福井県	四四〇七・三	九〇〇	—	—	—
長野県	一六四〇・七	三六〇	—	—	—
岐阜県	八〇六五・五	七五〇	—	—	—
滋賀県	六〇三三・一	七二〇	—	—	—
山梨県	四三八・六	六〇〇	—	—	—
静岡県	一〇七六九・六	七〇〇〇	—	—	—
愛知県	一五六八九・八	九〇〇	—	—	—
三重県	七六六五・〇	七五〇	—	—	—
京都府	六三九四・二	四〇五〇	—	—	—
兵庫県	一〇六六一・八	三〇〇	—	—	—
大阪府	五三三三・〇	四三三	—	—	—
奈良県	五三三七・九	五四〇	—	—	—
和歌山県	五三五一・五	六〇〇	—	—	—
鳥取県	五〇六七・三	一八〇	—	—	—
島根県	五三九七・九	一八四	—	—	—
岡山県	六六一五・三	三六〇	—	—	—

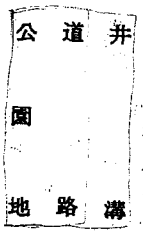
地	宅		畑	
	反別	一反歩価額	反別	一反歩価額
広島県	五九〇・六	三〇〇	五六五・一	二四五
山口県	八二八・三	三三〇	七〇五・〇	一七三
徳島県	四七五・六	三三〇	四六〇・六	一八〇
香川県	四七三・〇	二八五	七九五・七	三〇〇
愛媛県	五九二・七	二二〇	三三六・三	一五九
高知県	三三三・八	二七〇	七九・四	二〇
大分県	六五三・一	一五〇	一九・四	二〇
福岡県	一七九六・一	三二〇	一四五・九	七六
佐賀県	四三六・五	一〇〇	二・九	六九
長崎県	五七八・三	一八〇	三・三	六九
熊本県	九八二・一	一三〇	三・〇	六九
宮崎県	六二六・四	二八〇	一・三	一三
鹿児島県	二五二・二	三六〇	一四一・〇	六〇
沖縄県	五九九・九	六五	一〇四・〇	二四

(イ) 民有年期地の価額 五千十二萬円四十三円
 地価の三倍を以て其の価額とせり。

反別 単価 価額
 民有年期地 三二五・〇六七・七 地価の三倍 五〇、一二〇、〇四三
 (ハ) 民有免租地の価額 四億一千百三十九萬四千五十五円
 民有免租地は之を敷地用のものと用地のものとの二に大別し敷地は民有有租地の中等宅地売買価額を
 単価とし、用地は山林、原野、牧場、池沼、雑種の平均一反歩価額を単価とし之を総反別に乘じて算
 出したり。

地	反別	単価	価額
總数	六三三、八八八・六	中等宅地一反歩売買 価額一千四十九円	四一一、三九四、〇五五
学校敷地	七、五三〇・二		七八、九九一、七九八
府県庁敷地	九五・四		一、〇〇〇、七四六
郡役所敷地	八八・四		九二七、三二六
市区役所敷地	二三・四		二四五、四六六
町村役場敷地	二七九・八		二、九三五、一〇二
警察官舎敷地	八九・五		九三八、八五五
議事所敷地	三三・三		三二八、三三七
郵便電信電話敷地	三・九		四〇、九一一
農事試験場敷地	七三三・四		七、四八三、五六六
工業試験場敷地	四・三		四五、一〇七
水産試験場敷地	一四・二		一四八、九五八

反別	町	単	無	価額
病院敷地	二二五・七	同	同	二、三六七、五九三
隔離病舎敷地	五二一・八	同	同	五、三六八、七八二
隔離所敷地	三五・〇	同	同	三六七、一五〇
消毒所敷地	一・〇	同	同	一〇、四九〇
検疫所敷地	二・五	同	同	一六、三三五
府県社地	六・八	同	同	七、三三三
郷村社地	一、三二・八	同	同	一三、七七一、二七二
招魂社地	二・三	同	同	二四、一二七
墳墓地(火葬場敷地ヲ含ム)	二三、六八六・七	同	同	二四八、一五二、九三八
井溝	一、四三五・〇	同	同	一八、五〇〇
公道路	三、七三二・八	同	同	七四、六五六
公園地	六〇五・九	同	同	一、二一・一八
用悪水路	三、六七九・五	同	同	七三、五九〇
溜池	四五、五三九・七	同	同	九一〇、七九四
堤塘	四、二三九・六	同	同	八四、七九一
保安林	四八九、八七四・四	同	同	九七九七、四八八
沙防地	一、六七七・六	同	同	一五三、五五二



運河敷地	一四・四	同	二八八
鉄道用地	二、二九〇・六	宅地中等地売買價格の平均一千四十九円	二四〇二八、三九四
軌道用地	五四三・五	同	五、七〇二、三二五
水道用地	六一九・九	同	六、五〇二、七五一
其他	三三、九八七・三	山林、原野、牧場、池沼、雑種地ノ平均一反歩價額(二円)	六七九、七四六

(一) 国有林野の価額 一億七百七十七萬五千二百八十二円
 国有林野中森林は地価の四倍原野は地価の三倍を以て其の価額とせり。

反別	町	単	無	価額
国有林野	七、九八八、六四四・〇	—	—	一〇七、七七五、二八二
森林	七、八六九、四二八・〇	地価の四倍	—	一〇七、〇三四、三三二
原野	一一九、二二六・〇	地価の三倍	—	七五二、〇六一

(ホ) 公有社寺有林野の価額 四千二十一萬一千六百九十円
 国有林野と同様の方法を以て其の価額を算出せり。

公有社寺有林野	三、六四九、八六二・四	—	—	四〇、二二一、六九〇
森林	二、八八八、七五八・四	地価の四倍	—	三九、二八七、二二四
原野	七六一、一〇四・〇	地価の三倍	—	九二四、五七六

二 鉱山の価額 十四億六千八百四十八萬七千九百二十円

大正二年に於ける鉱産額一億四千六百八十四萬八千七百九十二円の五割を純益と仮定し年利率五分に

て還元し前記の価額を算出したり。

$$1468487920\text{円} \times \frac{50}{100} + \frac{5}{100} = 1468487920\text{円}$$

銀産額 (大正二年)

種類	数量	価額
金	一、四七七、〇五〇 匁	一四六、八四八、七九二 円
銀	三九、〇〇七、三八八 匁	七、二五二、〇〇〇
銅	一一〇、八三五、四〇八 斤	五、六三五、一二四
鉛	六、二九四、八五四 斤	四二、〇一一、一二六
錫	五二六 斤	六一七、八六六
錫	六五、一三八 斤	二、二六八
安質母尼	一三五、九九七 匁	八二、一一一
水銀	三五、七九五 斤	三四六、一四三
亜鉛	一五九 斤	四、五六九
鉄	九、二五八、三六六 匁	二一五
鉄	一九、〇二九、八八九 匁	八五七、一七九
硫化鉄	三〇、五五三、六二六 匁	三、四二七、〇七二
格魯護鉄	三五四、九七〇 匁	五八九、九二七
		一八、六〇四

満庵	四、八六九、〇三一 匁	一八二、八七一
重石	六五、八一 匁	二三二、〇四八
水鉛	九三六 匁	二、五五五
砒	三四、八〇五 斤	三、五一三
燐	五、〇七八、七四二 匁	二八九、一四五
黒鉛	一、一〇九、一一一 斤	三一、八九八
石炭	二一、三一五、九六二 仏噸	七〇、九五六、一二一
亜炭	九九、六三一 仏噸	一八四、四七二
石油	一、六九三、五八二 石	一二、四九八、五〇六
土瀝	六〇二、七二五 匁	五四、〇二七
硫黄	九九、〇八〇、七一一 斤	一、五六八、四三二

三 海湖川及港灣の価額 二十七億六千七百四十二萬七千三百六十八円

(一) 海湖川の価額 十六億八千九百九十五萬九千三百八円

(イ) 塩価よりの還元価額 九千八百八十五萬四十円

大正二年度の塩賠償金額一千二百三十五萬六千三百円の四割を純益と仮定し年利率五分にて還元し前記の価額を算出した。

$$12356300\text{円} \times \frac{40}{100} + \frac{5}{100} = 98850040\text{円}$$

(ロ) 水産物よりの還元価額 十五億二千五百萬三千五百六十八円

大正二年に於ける水産漁獲物価額九千五百六萬五千八百四十八円の八割を純益と仮定し年利率五分にて還元し前記の価額を算出したリ。

$$(6) \quad 95,065,848 \text{円} \times \frac{80}{100} \div 100 = 4,521,053,568 \text{円}$$

大正二年に於ける水力電気事業の利益一千百六十七萬五千九百五十円の三割を純益と仮定し年利率五分にて還元し前記の価額を算出したリ。

$$1,675,950 \text{円} \times \frac{30}{100} \div 100 = 7,905,470 \text{円}$$

(二) 港湾の価額 十億七千七百四十六萬八千六百十円

港湾の設備は毎三十年に改造せらるゝものと仮定し、一年間に於ける加工費の三十倍を以て港湾の価額と看做したり、即ち内務省土木局年報に依り大正二年の港湾費三千五百九十一萬五千六百二十円を三倍して前記の価額を算出したリ。

四 樹木の価額 十七億六千十四萬七千三百八十九円

立木を用材として其の石数を見積れば五十八億六千七百十五萬七千九百六十四石あり、而して一石の単価を三十銭と仮定し之を総石数に乘じて前記の価額を算出したリ。

社	公	国	總	積	石	數	單	價
寺	有	有	數	積	石	數	價	額
有	有	有	五、八六七、一五七、九六四	三〇	一、七六〇、一四七、三八九			
有	有	有	二、九八七、〇九四、三六四	三〇	八九六、一二八、三〇九			
有	有	有	六七三、三二五、〇二六	三〇	二〇一、九九七、五〇八			
有	有	有	三三、一八八、七九五	三〇	九、九五六、六三八			

私 有 二、一七三、五四九、七七九 三〇 六五二、〇六四、九三四

五 建物の価額 三十六億三千百六十二萬六千七百三十二円

各省及皇室所有の建物は之を除き一般住家、團體建物及公有建物の三種に大別し次の方法に依り其の価額を算出したリ。

(イ) 一般住家の価額 三十一億三千百九十九萬六千八百八十二円

司法省登記年報所載の家屋売買登記料より一戸平均売買価額を還元算出し、之を大正二年末人口靜態調査に依る現住戸數に乘じて總額を算出す。但し登記価額は実価より低廉なるが如く尙現住戸數以外に附属建物あるを以て前記の価額を二倍して全額と看做したり。

一 單価の基く計數

總	登記料	現買戸數	一戸平均登記料	單
數	円	戸	円	價
東京府	七、八三九、一〇、五五	一、四三一、五〇	五、四七〇	一、五六、〇〇〇
京都府	三、〇四七、三八、三八	一、一八五、〇	二、五、七一〇	七、三四、五七〇
大阪府	八、五四三、一四	三、七一一五	二、二九〇	六、五、四三〇
神奈川縣	七、二一七、五、七八	四、九〇四	一、四、七一〇	四、二〇、二九〇
兵庫縣	二、四八一、六、〇五	三、九六四	六、二六〇	一、七八、八六〇
長崎縣	五、四三〇、四、七三	九、九三二	五、四六〇	一、五六、〇〇〇
新潟縣	八、二〇〇、三九	三、〇〇四	二、七三〇	七、八、〇〇〇
埼玉縣	二、二、五六五、九四	三、八六二	五、八四〇	一、六六、八六〇
埼玉縣	四、〇四八、三九	三、〇〇九	一、三、四〇	三、八、二九〇